

インナー大会プレゼン部門 2016 専用企画シート

大学・学部・所属ゼミナール名（フリガナ）		
ホウセイダイガク	ゲンダイフクシガク	トイマサアツ
法政大学	現代福祉学部	土肥将敦ゼミナール

チーム名（フリガナ）	代表者名（フリガナ）	チーム人数 （代表者含む）	PPT 動画 （有・無）
	イイジママサナリ	2 名	無
チームキョホー	飯島政成		

研究テーマ（発表タイトル）
オリンピックをみんなでフェアにしよう！！

1. 研究概要（目的・狙いなど）

2020 年にある東京オリンピックに向けて、「フェア」で溢れたオリンピックの提唱を目指す。オリンピックは平等性や公平性を重んじた国際的なスポーツイベントである。そこで、東京オリンピックでは今までで最もフェアなオリンピックを目指し、成功させるためにオリンピックで用いる物資や備品の調達を含めたフェアな運営を、観衆を含めた大会全体でつくり盛り上げていくことを目的とする。

観衆をも巻き込んでフェアなオリンピックをつくり盛り上げていくために、「認知」に価値を置く。フェアな運営に関し、オリンピックの運営と企業間だけの問題とせず、オリンピックを観る私達一般の観衆を巻き込んだキャンペーンを展開する。キャンペーンは、一般の観衆に向けたものとし、観衆にサプライチェーンにおける社会的課題を認知してもらい、その問題改善に向けての取り組みへの「きっかけ」の機会づくりという位置づけにする。また同時に、オリンピックという国際的なスポーツイベントでこのキャンペーンを展開することで、その他のイベントで適用できる様なモデルケースとなり、その後の波及効果が期待できる。

2. 研究テーマの現状分析（歴史的背景、マーケット環境など）

過去のオリンピックで、オリンピック関連製品を製造するサプライチェーンにおいて問題が発生している。

2008 年開催の北京オリンピックでは、北京オリンピック関連グッズの製造工場で児童労働などの労働基準違反が発生していることが AFP 通信によって報道された。この事実は、国際労働組合総連合の調査によって明らかになったもので、中国南部の工場 4 ヶ所において児童労働の使用や法定最低賃金の半分の給与しか支払っていない現状などが告発された。児童労働の使用の他にも強制労働や外部調査官への虚偽報告の強要、衛生・安全上の不備についても告発された。また 2014 年ソチオリンピックでも違法労働が発生している。建設作業に従事した出稼ぎ労働者に対して賃金の未払い等の違法労働があったと報道された。国際人権団体による報告書によって、外国人の出稼ぎ労働者に対して、賃金の未払いや逃亡防止のために作業員のパスポートを不当に没収する、休日がほとんどない状態での長時間労働

働の強要、約束されていた宿泊施設や食事の手当てが不十分であるケースが報告された。

上記の発生した問題に対しては次のような処分が下されている。2008 年北京オリンピックで発生した、北京オリンピックグッズ製造工場での労働基準違反については、調査の後に約 130 万元（約 2040 万円）の罰金が科された。そして、2014 年ソチオリンピックでの違法労働に関しても、関与した企業に対して罰金が科された。このように問題に対しては「罰金」という形で責任を取らせてはいるが、児童労働や違法労働といったこれらの社会的課題の根本的解決には至っていない。

3. 研究テーマの課題

上記のように、オリンピックという国際的スポーツイベントに関連した製品であるにも関わらず、児童労働や違法労働といった社会的課題が発生している事実がある。さらに、こうした社会的課題は国際的な報道機関によって報道されているが、まだまだ認知度は乏しい。とりわけ、先進国のなかでも日本は児童労働といった問題に対しては、共感が得づらく、他の先進国と比べて取り組みも遅れている。

米国には過去、児童労働が当然のように行われていた歴史がある。そのような中で、1912 年に連邦児童福祉局が創設され、政府がこの社会的課題の調査、廃絶へと動き始めた。これにより、世論への認知が広がると共に関心が高まった。そのことが、いま現在、この社会的課題に取り組む企業や組織が多く存在することにつながっている。また EU では、欧州統合の過程で発生した失業率の増加を契機に、低下した政府の役割を企業や組織が補完しようという機運が高まった。これにより、世論への認知が広がると共に労働問題をはじめとする社会的課題への取り組みが活発となっている。

しかし、日本ではこういった社会的課題への認知が遅れており、取り組みも遅れをとる形となっている。今のところ、日本政府としての児童労働撤廃に向けての明確な方針、政策等も確認できていない。日本では、実際に問題が起きている現場と距離があるため、問題への危機感や共感を持ちづらく、認知が遅れてしまっている。米国や EU のように、認知の拡大を契機に、取り組みも活性化していくべきだろう。

2008 年北京オリンピックでは、「PlayFair 2008 キャンペーン」と題して、スポーツウェア企業やスポーツシューズ企業、そして国際オリンピック委員会や国内オリンピック委員会と、世界のスポーツ用品産業で働く労働者の搾取・虐待をなくすためのキャンペーンが展開された。このキャンペーンでは、国際オリンピック委員会や各国オリンピック委員会、スポーツウェア企業やその他関連企業、各国政府、投資家へのそれぞれに対し、要請事項が記載されている。しかし、消費者やスポーツファンを含む一般観衆に対しては、「キャンペーン要請事項に関する諸活動・意識啓発の実施を通してこのキャンペーンに積極的に参加し、運動を成功に導いてほしい。」という一文にとどまっている。具体的な施策がないうえに、キャンペーン参加に対する障壁が高くなっており、このキャンペーンを知ったうえで、社会的課題を認知または関心を持っていることが前提となっている。これではオリンピック委員会と企業、政府のみの関わりとなっており、一般の観衆が置き去りにされたキャンペーンとなってしまう。

4. 課題解決策（新たなビジネスモデル・理論など）

私達は、「オリンピックであなたもフェアプレー！！キャンペーン」と題し、過去のオリンピックで発生していた、サプライチェーンにおける児童労働や違法労働等の社会的課題の認知と企業の CSR 活動の強化を目指す。社会的課題改善への第一歩として、まずは「認知」されることが必須である。米国や EU の例の様に、社会的課題が世論へと認知されることが課題への取り組みの進展につながるからである。そのため、世論への認知によって、問題改善へのきっかけづくりをねらうと同時に、その後の「持続性」も期待できる。また、各企業が行っている CSR 活動の発展を促し、社会的問題の改善への支援を目的とする。

キャンペーンの具体的な内容としては、オリンピック関連グッズに QR コードを表記する。観衆がその QR コードを読み取ることでその製品の原産国やその製品の価格構成、また、その製品の企業が行っている CSR 活動等の情報を手に入れ

ることが出来る。観衆がこれらの情報開示によって、その製品のサプライチェーンが明確になり、透明性を確保することが可能となると同時に、こういった情報に触れる機会づくりとなり、社会的課題への認知にもつながる。企業は自社製品のQRコードへのアクセスを促すために、企業ごとにクーポン券や商品のプレゼントなど何らかの特典を設け、観衆からのアクセス数の獲得を目指す。企業はアクセスによって自社製品の宣伝と自社のCSR活動をアピールすることでイメージアップやブランドイメージの定着をねらうことが出来る。また、企業はアクセス数に応じてCSR活動への取り組みをより発展させることで、QRコードを読み取る観衆に対して、問題解決への意識を持ってもらうことにつながる。

このキャンペーンは、オリンピック主催者側、その製品の企業、QRコードを読み取る観衆それぞれにメリットがある。オリンピック主催者側は、「オリンピックであなともフェアプレー！！キャンペーン」を通して、「フェア」なオリンピックを全面に押し出し、オリンピック憲章を体現したオリンピック運営をすることが可能となる。企業のメリットとしては、QRコードを通して開示する情報によって、自社の製品の透明性をアピールすると共に、行っているCSR活動からイメージアップとブランドイメージの定着がねらえる。また、アクセスによって自社製品の宣伝につなげることができ、オリンピックという国際的な舞台での宣伝機会を獲得することが可能となる。最後にQRコードを読み取る観衆は、企業ごとの特典を得ることができると共に、アクセスによって企業のCSR活動支援の一担となり、社会的課題を認知しそこから共感意識を持つことが出来る。

5. 研究・活動内容（アンケート調査、商品開発など）

過去のオリンピックの計画書や、2020年東京オリンピック立候補ファイルの考察、比較を通し、それぞれの長所と短所を分析し、東京オリンピックに向けて「フェア」に価値をおいたオリンピック提案の考案と研究。

6. 結果や今後の取り組み

今後の取り組みとしては、私たちが提案する「オリンピックでみんなもフェアプレー！！キャンペーン」を検証していただくことが出来ないか、JOC（日本オリンピック委員会）様とコンタクトをとっている最中です。

7. 参考文献

「JOC 日本オリンピック委員会」〈<http://www.joc.or.jp/>〉（2016/09/24）

「AFP 通信」〈<http://www.afpbb.com/articles/-/2238130>〉（2016/09/24）

〈<http://www.afpbb.com/articles/-/3008215>〉（2016/09/24）

「東京オリンピック立候補ファイル」〈<https://tokyo2020.jp/jp/games/plan/>〉（2016/09/24）

「PlayFair2008」〈<http://playfair2008.org/>〉（2016/09/25）

インナー大会プレゼン部門実行委員会への連絡事項

* 参加メンバーの変更